

# 年頭のごあいさつ

黒潮町長 大西勝也



明けましておめでとうございます。住民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

わが国に未曾有の被害をもたらした東北地方太平洋沖地震からはや8年が経とうとしています。今もなお懸命な復興を成し遂げようと努力されている被災地の姿を拝見するたび、あらためて1日も早い復興をお祈りするところです。昨年は、日本列島各地で甚大な被害を余儀なくされた災害の年でもありました。6月の大阪府北部地震、7月の西

日本豪雨、また、9月の北海道胆振東部地震において目の当たりにした災害は、いづれも町が教訓としなければならぬものです。そういった中、防災分野においては、佐賀中学校が地域と連携したこれまでの活動を認められ、内閣総理大臣賞を受賞されました。厳しい想定を突きつけられながらも、懸命に防災活動を推進していただいている生徒の姿は私たちにとっても大変心強く、あらためて敬意と感謝を申し上げます。また、黒潮町出身者として初めて、千代の海関が十両昇進を果たしました。厳しい角界において、私たちには想像も及ばないような精進の積み重ねによる賜物であり、住民の皆様と喜びを分かち合うとともに、今後のますますのご活躍を期待するところです。地域におきましては、町内

4カ所目となる「集落活動センターかきせ」が開所式を迎え、本格的に活動をスタートいたしました。すでに取り組まれている地域活動に加え、スポーツツーリズムの宿泊受け入れなど、多くの皆様が集い、地域の核となる施設としてさらに期待をするとともに、町内各地で活動されている各集落活動センターやあったかふれあいセンターとより密に連携を図り、幸せな地域づくりに貢献いただけると確信しています。町行政としても町内で活動されている各団体・施設、そして多くのボランティアの皆様と連携し、「おかげさま」「おたがいさま」の精神でみんな支え合い、みんなで助け合う黒潮町地域包括ケアシステムの構築に全力で取り組み、組んでまいります。厳しい津波想定や叫ばれる人口減少など、本町が抱える

課題は教育から福祉、産業にいたるまで多岐にわたりますが、先人への感謝と次世代への責任を忘れず、住民の皆様とともに一歩一歩歩みを進めてまいりたいと思えます。住民の皆様におかれましては寒さ厳しい折、くれぐれもご自愛いただき、町政発展のためより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年一年が皆様にとりまして平穏で幸せな一年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

